

おきたま米づくり情報 No.4

高温が続く予想です！健苗育成に努め、適期に田植えを行いましょ！
田植え後は、こまめな水管理で初期生育を確保！

田植えは天気の良い日に適切な栽植密度で

- 田植えの適期は5/15～20日頃（晩限の目安は5/25。ただし「つや姫」は5/20日まで）。
- 田植えは、低温や強風の日は避け、天気の良い日を選んで行いましょう。
- 植込本数は㎡当たり100本程度（70株/坪、株当たり4～5本）を目安とします。
- 植付け深は3cm程度を基本とします（深植えは分けつの発生を抑制するので避ける）。

こまめな水管理と異常還元（ワキ）等の対策で初期生育を確保

- 田植え直後は、4～5cm程度の水深とし、活着を促進させます。活着後は、2～3cmの浅水管理とし、日中止水・夜間かんがいで昼夜の温度差を大きくし、分けつの発生を促進させます。
- 晴天・高温が続く場合は、2～3日おきに水の入れ替えを行い、ワキや表層剥離の発生を抑制します。
- ワキの兆候が見られた場合は、速やかに水の入れ替えや夜間落水を行いましょ！



病害虫防除・雑草防除のポイント

箱施用剤の適正使用と補植用取置き苗の速やかな除去

- ※箱施用剤と除草剤（1キロ粒剤）の取り間違えに要注意。散布前によく確認しましょ！
- プール育苗の場合、箱施用剤は落水後に散布しましょ！
- 育苗ハウス内で野菜等の後作を予定している場合は、苗をハウスの外に出してから箱施用剤を散布します。
- 補植用の取置き苗は、いもち病の伝染源となります。補植作業は田植え後1週間以内に行い、**取置き苗は速やかに処分**しましょ！

除草剤の適正使用で効率的な雑草防除

- 除草剤の使用基準をよく確認し、適切な使用時期に早めの散布を心掛けましょ！。雑草の葉齢が進むと、除草剤の効果が十分に発揮されない場合があります。
- 除草剤の散布後7日間は止め水とし、田面を露出させないようにします。**異常還元（ワキ）の発生を抑制するため、除草剤の散布前には、必ず水の入れ替え**を行いましょ！。

春季農作業事故防止啓発運動 展開中！

- 安全確認と予防対策（ブレーキ連結等）で公道でのトラクターによる事故を防ぎましょ！。
- 圃場へ侵入する際は「傾斜方向に対して斜めに入らない」等細心の注意を払いましょ！。
- 熱中症にも要注意**。こまめな休憩と水分補給。ゆとりをもった作業を心掛けましょ！。